

優秀

## 伝統文化と最新技術でより良い福祉を

相模原中等教育学校 3年 三浦航大

私は幼稚園の年長から、自分の住む地域で阿波踊りというものやっています。阿波踊りは徳島が発祥ですが、今では全国各地で踊られています。私の住む相模原市でもたくさんの人によって踊られています。その阿波踊りの活動では、障がいを持つ人や高齢の方と関わる事が多く、その経験から私は伝統文化を生かした福祉を日本は目指していくべきだと思います。

ではなぜそう考えたのか。まずは私が阿波踊りで経験してきた3つのことを紹介したいと思います。

一つ目は、連内での支え合いです。連とは踊りの一グループのことです、私が所属する連はとても規模の小さい連ですが、小さな子供からお年寄りまでの幅広い年代の人が所属していて、普段はなかなか関わらないような人ともコミュニケーションをとることができます。そんな連の中で、練習では中高生が小学生や幼稚園に通っているような子供たちに踊りを教えたり、踊りの本番であるお祭りなどでは、お年寄りのメンバーも含めみんなで協力して踊りきるという場面が今まで何度もありました。このような支え合いは、阿波踊りを続けてきたからこそ、経験できたと思います。

二つ目は、毎年開催される地元のお祭りの「にわか連」での経験です。にわか連とは普段から活動している連とは別で、当日参加で誰もが踊りに参加できる連のことで、私も今の連に入る前は何度もお世話になり、そこでの経験がきっかけで今の連に入りました。にわか連にも私たちの連と同様に様々な年代の人が参加しますが、時々車いすに乗った人など、

体が不自由な人も参加していて、そんな人たちとも共に踊ることができるとのがにわか連の魅力だと思います。今の連に入る前はそのような人たちと共に踊る経験が、そして入ってからはそのような人たちに踊りを教えるなど、少し連に所属する前とは違った経験ができました。

三つ目は、踊りを見せることで多くの方々に喜んでもらえたり、元気を届けられたりしたという経験です。夏の地元のお祭りでは、一部の踊り場所には車いす席があり、近くの老人ホームから職員の人と共に見に来てくれる人がいます。そんな方たちに踊りを見せると、「元気をもらったよ」という風に声をかけてくれたり、大きな拍手をしてくれて、元気を届けると同時にたくさんの方々の元気をもらうこともありました。また、お祭りの時だけでなく、連で老人ホームを訪れた時も、多くの方に喜んでもらえたと思いますし、私もたくさんの方々のパワーをもらいました。

このように、阿波踊りを通して、体の不自由な人や高齢の人など様々な人との関わり、とても良い経験となりました。その中で、私はこのようなことは阿波踊りだけでなく、日本にある他の多くの伝統文化にもできるのではないかと思います。特に日本の伝統文化は衰退の一途をたどっていて、福祉と伝統文化を上手く組み合わせることで、より良い福祉と伝統文化の復活、この両方を目指すことができると思います。また、伝統文化は体の不自由な人だけでなく、その人たちを献身的にサポートしている家族や老人ホームの職員の人などにも元気と感動を届けることもできると思います。

ただ、新型コロナウイルスの影響で、お祭りが中止になったり、老人ホームの訪問の取りやめなどで、パフォーマンスを生で見てもらう機会はほとんどなくなってしまうかもしれません。ですがその中でも、最新技術を用いたオンラインという新たな形であれば、今までの交流を続けていくことができると思います。そして、伝統文化と最新技術を組み合わせることにより、より良い福祉が生まれると思います。